

## 1. 木質バイオマス関連情報

■日立造船(株)(大阪)子会社 Hitachi Zosen Inova AG (スイス)が、ドイツのアンレヒテ市内のバイオガスプラント向けに HZI の Kompogas®技術を用いたメタン発酵槽をはじめとする機械設備を受注。コンポガス技術「Kompogas®」は乾式メタン発酵の代表的な手法の1つ。これを用いたバイオガスプラントでは、有機性廃棄物 15,000t/年をメタン発酵槽1基で処理し、年間 150 万 Nm<sup>3</sup>のバイオガスを生成する。生成されたバイオガスはコジェネレーションシステムの燃料となり、同システムで発電(発電量は 3.5 GWh (350 万 kWh) /年)。発電した電力の一部(ドイツ約 1,100 世帯に相当)は地元電力会社に販売し、排熱はバイオガスプラントで再利用する計画。本件は HZI が Axpo Kompogas Engineering AG の資産買収によりバイオガスプラント建設事業へ進出して以来ドイツにおける初の受注であり、同国内における 22 件目の Kompogas®バイオガスプラントとなる。納期は 2020 年【日立造船(株)：2018/10/10】

<http://www.hitachizosen.co.jp/news/2018/10/003154.html>

■香川県、第 29 回香川県環境影響評価技術審査会を 10 月 11 日、県庁内で開催。イーレックス(株)(東京)が坂出市林田地区に計画している、「(仮称)坂出林田バイオマス発電所(発電出力 74,950kW)整備事業」の環境影響評価方法書(環境アセスの設計書など)に対する知事への答申案について審議【建通新聞：2018/10/12】

[https://www.kentsu.co.jp/webnews/html\\_top/181012200021.html](https://www.kentsu.co.jp/webnews/html_top/181012200021.html)

■三井物産(株)(東京)、関係会社の甲南ユーティリティ(株)(兵庫)が兵庫県神戸市に所有する木質バイオマスコージェネレーション(熱電併給)設備の J-クレジット制度への登録を 10 月 4 日に完了したと発表。今回登録されたプロジェクトの J-クレジット想定創出量 36,120t-CO<sub>2</sub>/年は、これまでに登録されている 742 件の登録プロジェクト中で単体案件の規模としては最大。三井物産は 2020 年春から 8 年間にわたり創出される予定の J-クレジットについて、甲南ユーティリティから全量

を引き取る予定。J-クレジットの流動性を高めることで、FIT に依存せずに国内の再生可能エネルギー普及に貢献することを目指す【三井物産：2018/10/12】

[https://www.mitsui.com/jp/ja/topics/2018/1227388\\_11233.html](https://www.mitsui.com/jp/ja/topics/2018/1227388_11233.html)

■神奈川県松田町、木質バイオマス導入計画策定へ。将来的に、地元木材を細かく砕いた木質チップを燃料として、町内にある温浴施設へ温水を供給したり、焼却熱を農業に利用したりする事業につなげたい考え。現時点で発電事業は想定していない。計画の策定に当たっては、「エネルギー施策に関するアドバイザリー協定」を結んでいる「(一社)エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議(東京)」と業務委託契約を締結。環境省の補助金 1,370 万円を利用して 2018 年度内に木質バイオマスの実現可能性を調査し、計画を取りまとめる。具体的には、事業の実施場所として大規模林業者がおらず、森林の管理が行き届いていない町北部の寄(やどりき)地区を念頭に置く。(1) 利用可能な木材の量や樹種、需要の調査(2) 木質チップの加工事業者へのヒアリング(3) 木材の切り出しコストや採算性のシミュレーションなどを行う。町は「小規模自治体の身の丈に合った事業モデル」を策定し、2019 年度以降に運営組織の設立に着手、3 年以内の事業具体化を目指す方針【カナロコ：2018/10/13】

<http://www.kanaloco.jp/article/365523>

■三菱日立パワーシステムズ(株)(神奈川)、中部電力(株)(愛知)、東洋エンジニアリング(株)(神奈川)、(国研)宇宙航空研究開発機構(JAXA)(東京)が共同で、噴流床ガス化技術とマイクロチャネル FT(フィッシャー・トロブシュ)合成技術を組み合わせたバイオジェット燃料一貫製造設備を建設へ。パイロットプラントは、中部電力の新名古屋火力発電所内に設備を建設する。中部電力が木質バイオマスなどバイオマス原料を調達。それを三菱日立パワーシステムズがガス化炉へと供給するなどのプロセスを経て、バイオジェット燃料を製造する。

最終的に生産されたバイオジェット燃料は JAXA が試験を担当する予定で、エンジン試験などの利用検証については来年度に設備の準備を進め、2020 年度に準備と試験を行う計画。今年 12 月中にも一部の土工事に着手し、年度内に終了。来年度には電気工事、試運転まで実施する計画。研究開発は NEDO プロジェクトの一環【航空新聞社：2018/10/12】

<http://www.jwing.net/news/5834>

■九州電力（株）（福岡）、10 月 13 日に、離島を除いた全国初の再生可能エネルギー出力制御を実施。太陽光の急増に加え、原発 4 基の再稼働により供給力が大幅に高まったため。需要と供給量の大きな食い違いによる大規模停電を防ぐため、国のルールでは（1）火力（2）バイオマス（3）太陽光・風力（4）水力・原発・地熱の順に出力制御することになっている。火力は既に制御を実施し、バイオマスは 13 日に行う。日照条件がよい九州では太陽光発電が 5 万 kW/月のペースで増え続けており、これまでは水をくみ上げる揚水式や火力の発電量を調整するなどして需給バランスを保ってきたが、それでは間に合わなくなった。今後も太陽光が増えれば出力制御が頻発する恐れもあり、事業者からは戸惑いの声が上がっている【毎日新聞：2018/10/14、東京新聞：2018/10/13、電気新聞：2018/10/15】  
<https://mainichi.jp/articles/20181014/ddp/041/020/025000>  
[http://www.tokyo-np.co.jp/article/economics/economic\\_confe/list/CK2018101302100006.html](http://www.tokyo-np.co.jp/article/economics/economic_confe/list/CK2018101302100006.html)  
<https://www.denkishimbun.com/archives/33514>

■林野庁、「全国森林計画」が閣議決定されたと発表。全国森林計画は、森林法第 4 条の規定に基づき、農林水産大臣が 15 年を 1 期の計画期間として 5 年毎に定める計画。今回策定した全国森林計画は、2019 年 4 月 1 日～2034 年 3 月 31 日の 15 年を計画期間とするもの。計画には、2017 年 7 月の九州北部豪雨の流木災害を踏まえた流木対策の推進や、同年 7 月にとりまとめた報告書「『地域内エコシステム』の構築に向けて」を踏まえた木質バイオマス利用の推進といった、前期間中に新たに施策として導入されたものも踏まえた内容になっている。広域的な流域（44 流域）毎に定めている（ア）森林整備及び保全の目標、（イ）伐採立木材積や造林面積等の計量について、森林・林業基本計画に示されている目標等の考え方に即し、新たな計

画期間に見合う量を計上しており、都道府県知事がたてる地域森林計画等の指針となる【林野庁：2018/10/16】

[http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/keikaku/181016\\_17.html](http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/keikaku/181016_17.html)

■林野庁、2017 年 3 月 31 日現在の「森林資源の現況について」をプレスリリース。林野庁所管の国有林及び林野庁以外の省庁所管の国有林については林野庁が、民有林については都道府県が、地域森林計画及び国有林の地域別の森林計画策定時の資料（森林簿等）を基本として集計したものを、林野庁がとりまとめた。林野庁は全国森林計画策定の基礎資料を得ることを目的として、おおむね 5 年毎に調査を実施。全国森林計画の閣議決定と併せて公表している。集計結果によると、国内の森林面積は、前回調査時（2012 年 3 月 31 日現在）では 2,508 万 ha だったのが 2,505 万 ha となり、ほぼ横ばいで推移。森林蓄積の方は、人工林を中心に年々増加してきており、前回調査時約 49 億 m<sup>3</sup>だったのが約 52 億 4,200 万 m<sup>3</sup>となった。詳細は同庁サイトを参照【林野庁：2018/10/16】

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/keikaku/181016.html>

■金沢工業大学（石川）、再生可能エネルギーや蓄電池・EV（電気自動車）・水素・熱活用などを組み合わせた電力制御システムを構築する「エネルギーマネジメントプロジェクト」を 2018 年春より開始し、実験中。具体的には、（1）太陽光・風力・小水力・バイオマス発電・地熱発電などによる創エネ、（2）蓄電池・EV・水素へのエネルギー貯蔵、（3）DC（直流）リンクによる効率化、（4）温泉水・地下水・バイオマスボイラ・低温発電を用いた熱活用等と組み合わせ、地域内エネルギーの最適な運用を実現することを最終的なゴールとして設定。再生可能エネルギーを安定供給させるための分散型制御の電力システムもプロジェクトで構築する。現在は同大学白山麓キャンパスにある 4 つのコテージに太陽光発電と蓄電設備を設置し、直流給電システムの実証実験を行っている。電力が不足した場合はコテージ間で電力シェア（融通）し、再生可能エネルギーのみを使用する「オフグリッド化」を目指すとともに将来的にはブラックアウトに耐え得ることも実証検証する。さらにコテージで蓄電した電力で EV（電気自動車）を充電し、約 30km 離れた白山麓キャンパス（白山市）と扇が丘キャンパス（野々市市）の往復に使用してデータを収集する実験等も実施。AI や IoT 技術を活用し、これらの創エネ、エネルギー貯蔵、DC リンク、熱活用を効率的に行う、エネルギーマネジメントシステムの開発も

進めていく【金沢工業大学：2018/10/17】

[https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitnews/2018/1015\\_energy.html](https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitnews/2018/1015_energy.html)

■(株)タクマ(兵庫)、グループ会社の(株)タクマテクノス(東京)と共同で、(株)サラ(岡山)より民間企業向けでは同社初となるバイオマス発電設備のO&M(Operation & Maintenance)を受託。サラは、半閉鎖型グリーンハウスを用いた野菜栽培とバイオマス発電を組み合わせた世界最先端の施設園芸事業を推進するベンチャー企業。現在岡山県笠岡湾の干拓地において、国内最大規模となる13haの半閉鎖型グリーンハウスとバイオマス発電プラントを整備中。タクマはO&Mに先立ち、バイオマス発電設備と燃焼ガス浄化装置を受注し、建設工事を行っている。同設備では主にPKS等の輸入木材や周辺地域の一般木材を燃料利用する。発電規模は10,000kW。発電した電力の一部をグリーンハウスに供給するとともに、回収した熱を野菜栽培に必要な暖房・除湿冷房用の熱源として利用するほか、燃焼ガスから精製したCO<sub>2</sub>を野菜栽培に活用する計画。またFITの適用を受け、グループ会社の(株)タクマエナジー(兵庫)が購入する予定。今回のO&Mは、タクマとタクマテクノスが共同で稼働開始後20年間の同設備の運転管理とメンテナンスに一括して取り組む。操業は2019年4月からで、チェリートマト、パブリカ、リーフレタスが年間を通じて出荷されるようになる予定【(株)タクマ：2018/10/17】

<https://www.takuma.co.jp/news/2018/20181017.html>

■資源エネ庁、固定価格買取制度情報公表用ウェブサイトにて、2018年3月末時点のFIT認定の認定量・導入量等を公表【資源エネ庁：2018/10/17】

<https://www.fit-portal.go.jp/PublicInfoSummary>

■奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科バイオサイエンス領域植物代謝制御研究室(奈良)の研究グループは、ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)との共同研究により、木質バイオマスの本体である「リグノセルロース」という高分子混合物の生合成モデルを25年ぶりに刷新。リグノセルロースは、繊維やパルプなどに使われる「セルロース」、さまざまな糖原が得られる「ヘミセルロース」、香料や接着剤などの開発が進む「リグニン」の3成分で構成される。これまでは最初に主成分のセルロースが蓄積され、それに依存して他の2成分が蓄

積されるのが定説となっていた。しかしセルロースが作られない変異体の解析から、この3成分は初期の段階でそれぞれ独立して蓄積されることを実証。これによりセルロースと独立してヘミセルロースやリグニンを人為操作できる可能性が見出され、目的に合わせた性質をもったリグノセルロースの生合成を目指す上で、重要な発見となった。同研究をさらに発展させることで、将来的な木質バイオマスの質的改変技術へつながることが期待される【奈良先端科学技術大学院：2018/10/19】

<http://www.naist.jp/pressrelease/2018/10/005316.html>

■農水省、バイオマス産業都市の選定結果を公表。バイオマス産業都市とは、原料生産から収集・運搬、製造・利用まで、経済性が確保された一貫システムを構築し、地域の特色を活かしたバイオマス産業を軸とした環境にやさしく災害に強いまち・むらづくりを目指す地域のことで、平成25年から関係7府省(内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省)が共同で推進している。今年度新たに選定された地域は、北海道稚内市、北海道浜頓別町、北海道幌延町、兵庫県養父市、鳥取県北栄町の5市町。11月7日(水)には、バイオマス産業都市の認定証の授与式を開催【農水省：2018/10/19】

<http://www.maff.go.jp/j/press/shokusan/bioi/181019.html>

■XPRIZE財団(USA)が2016年に開始した、“100%再生可能エネルギーだけを使い、大気から最低2,000ℓ/日の淡水を抽出する装置”開発コンペ「Water Abundance XPRIZE」にて、Skysource / Skywater Alliance(同)の開発したWEDEW(Wood to Energy Deployed Water)が賞金150万ドル(約1億6900万円)を獲得。WEDEWは温かい空気を冷却することでタンク内に結露を発生させ、その水分を蓄える装置とそれに必要となる熱と湿気を枯れ落ちた木材のチップやココナッツの殻その他バイオマスの熱分解から生み出す装置を組み合わせたもの。このバイオマスは自然の状態に放置すれば大量のCO<sub>2</sub>を放出する山火事の原因にもなり得るため、利用するのは一石二鳥。さらに熱分解後のスラッジは有機物を多く含むバイオ炭として土壌改良に再利用できる。賞金として獲得した150万ドルは非営利団体と協力してバイオマス式システムを生産し普及させるために使われる【engadget、XPRIZE財団：2018/10/22】

<https://japanese.engadget.com/2018/10/22/xprize-skywater-150/>

<https://www.xprize.org/articles/waxp-grand-prize-winner>

■DSJホールディングス(株)(東京)と(株)ガイア環境技術研究所(宮城)、PKS等を炭化で「無害化」し、安全なバイオ燃料量産へ。両社はバイオマス発電の燃料として注目されるPKSやEFB(空果房)、OPT(古木)の有害物質を全て無害化して炭化燃料にする技術を世界で初めて開発。12月からインドネシアで試験的に生産を開始【電気新聞:2018/10/23】

<https://www.denkishimbun.com/archives/33831>

■産業廃棄物処分業の(株)県南エコテック(宮城)が宮城県川崎町支倉にバイオマスガス発電所を開設。10月23日に落成式。同発電所はフィンランドのVolter社製ガス化発電装置(出力40kW)を備えており、年間発電量は29万6,400kW/h。仙南地域の間伐材などで作る木質チップを燃料にする。事業費は約6,000万円で、このうち1/3は宮城県の「平成30年度木質バイオマス広域利用モデル形成事業」のメニューの一つである「未利用バイオマス安定調達支援」を活用。発電所の稼働は11月1日から。FIT制度を利用し、東北電力(株)(宮城)に40円/kWで売電する【河北新報:2018/10/24、宮城県「宮城県林業普及活動情報2018.5月号」:2018/06/25】

[https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201810/20181024\\_12038.html](https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201810/20181024_12038.html)

<https://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/693380.pdf>

■かぶちゃん村森の発電所(長野)、事業体のかぶちゃん電力(株)(東京)が倒産し、運営を停止。発電所は、2015年6月に(株)ZEエナジー(東京)の木質バイオマス熱分解ガス化CHPシステム(出力規模360kW)を導入した、ガス化では長野県初のコンパクトバイオマス発電システム。同電力は(株)ケフィア事業振興会(東京)のグループ企業。ケフィアは負債総額1,053億円(債権者約3万人)で2018年9月に巨額破産し、9~10月にかけてほとんどのグループ企業が連鎖的に破綻している。かぶちゃん電力の負債は約16億8,714万円(債権者約15人)【OSR No.344:2018/10/24、かぶちゃん電力(株)】

<http://kabu-den.jp/index.html>

■岩手県釜石市で、東日本大震災で被災した高齢者を対象に薪作りに取り組んでもらう事業開始へ。釜石市社会福祉協議会と、

釜石地方森林組合が協力した「広葉樹を加工した薪(まき)の商品化」事業。震災直後から被災地支援を続けてきた服飾デザイナーのラルフ・ローレン社(米国)が事業開始資金400万円を提供。民間外交団体の日本国際交流センター(JCIE)が、県内で総合的な支援活動をしている同社協等4団体を選んでラルフ社に取り次いだ。引きこもりがちの高齢者に生きがいを見いだしてもらおうと同時に人手不足で荒れる山林の管理・活用につなげるのが狙い【朝日新聞:2018/10/25】

<https://www.asahi.com/articles/ASLBS5TSXLBSUJUB00X.html>

■富山県朝日町、再生可能エネルギーの事業化に向けた研究・調査開始へ。朝日町はかつてバイオマスタウン構想の策定等を行ったが採算性の確保をはじめ課題が多く、具体的な取組みに至らなかった。しかし政府が2016年にまとめた地球温暖化対策計画を受けて自然エネルギー導入の動きが国内で広まり、改めて町の事業として可能性を探ることに。太陽光発電に着目しており、発電設備を整備し、あさひ総合病院(同町)へ電気供給する仕組みを計画。天候に左右されやすい立地を踏まえて蓄電池の設置や余剰電力を送電するエネルギーマネジメントシステム(EMS)を想定。間伐材チップが燃料となるバイオマス設備の併用も検討する。日本環境協会(東京)から再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業の採択を受けており、調査・研究にかかる費用912万円は国が全額補助する。10月25日には町のエネルギー政策について考える再生可能エネルギービジョン検討委員会を発足、来年2月末までに来年度以降の実施計画を定める予定【北日本新聞社:2018/10/25】

<http://webun.jp/item/7510913>

■長野県中川村で、村内の山林から切り出した木材を薪に活用する事業「信州なかがわ木の駅」を本格的に開始。同実行委員会が10月27日に、村商工祭でにぎわう中川ショッピングセンターチャオ周辺で開駅式を開き、地域住民に事業の開始を周知。木材を利用したエネルギーの地産地消の仕組みづくりを研究してきた村が、今年1月に村関係機関で実行委を発足し、3~5月には社会実験を実施するなど本格始動へ向けて準備を進めてきた。事業の参加資格は規定の安全講習を受けた村民のみで、村内の山林から間伐材や不要な樹木を切り出して、同村のかつらの丘山村公園駐車場に整備した貯木場へ搬入。木材の対価は地域通貨「里山券」で支払われ、5,000円/m<sup>3</sup>相当と交換される。里山券は11月中旬から、村内の飲食店など24店舗で使

用可能。搬入した木は乾燥させて薪に加工し、来年末ごろ稼働を予定する村観光宿泊施設・望岳荘の木質バイオマスボイラ等で消費する計画。実行委では、年間 300 m<sup>3</sup>の受け入れを目指している【Nagano Nippo Web：2018/10/28】

<http://www.nagano-np.co.jp/articles/40006>

■北海道網走市で、間伐材などを燃料に発電する「網走バイオマス発電所 1 号機」が完成し、10 月 29 日に竣工式と点火式。

(株) WIND-SMILE (東京) が建設。同社が 2015 年に独占供給契約を締結したドイツのメーカー INTEC Engineering GmbH の燃焼設備を導入した模様。この発電所では、山に放置される間伐材を燃やして蒸気タービンを回し、約 5,000 世帯分の年間使用量に当たる 1,995kW を発電し、全て北海道電力(株)(北海道)に売電する。同社は今後、網走バイオマス発電所 2 号機と 3 号機の建設も予定しているほか、停電などの非常時に周囲に送電する方法も検討していきたいとしている【北海道文化放送：2018/10/29、(株) Wind-Smaile】

<https://www.fnn.jp/posts/2018102900000003UHB>

<http://www.wind-smile.com/biomass/>

■中国電力(株)(広島)、三隅発電所 2 号機(島根県浜田市) 本体工事開始前に建設予定地で安全祈願祭を実施(10 月 29 日)。

同発電所は出力 100 万 kW の超々臨界圧発電(USC)で、石炭がメインで木質バイオマスも混焼する。今年 7 月 1 日から、既に発電所本体建物や燃料貯蔵設備等の構内敷地整備工事や、灰処分場内敷地整備工事に着手し、準備を進めてきた。11 月 1 日から開始する本体工事ではボイラ、タービン・発電機等の設置、タービン建物、ボイラ基礎他の設置、石炭貯蔵設備等の設置を行う。営業運転開始は 2022 年 11 月の予定【電気新聞：2018/10/30、中国電力(株)：2018/11/01】

<https://www.denkishimbun.com/archives/34048>

<http://www.energia.co.jp/press/2018/11475.html>

■資源エネ庁、「地域社会における持続的な再エネ導入に関する情報連絡会」を設置し、10 月 30 日に初会合。政府が 7 月 3 日に閣議決定した第 5 次エネルギー基本計画では、再生可能エネルギーについて、“2030 年のエネルギーミックスにおける電源構成比率の確実な実現を目指し、主力電源化への布石を打つ”としている。主力電源として持続的に発電事業を行うためには、①地域において立地の理解が得られること、②地方創成につな

がる事業化や事業体の育成がなされること、③円滑な事業継続に向けたメンテナンス体制が構築されること、といった環境整備が不可欠であることを踏まえ、地域社会において持続的に再生可能エネルギーが利用されていくための関係者間による情報共有の場として、同連絡会を設置。第 1 回会合では、①をテーマに、経産省、環境省が改正 FIT 法や環境影響評価等の状況について説明した他、和歌山県、静岡県、大阪府での事例が報告された。当日の会議資料は下記サイトを参照【資源エネ庁：2018/10/30】

[http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/saiene/renewable/community/index.html](http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saiene/renewable/community/index.html)

■福井県大野市の市役所一階にある二台の薪ストーブ、11 月 1 日に今シーズン最初の点火。薪ストーブは毎年 11 月～3 月末まで稼働。管理を委託されている(社福)「希望園」(同市)の職員が毎朝着火。通所者が九頭竜森林組合から提供されたスギの間伐材を薪にしてストーブにくべ、火の番をしている。薪ストーブは中央の待合空間に設置されており、訪れた市民が暖をとれるようになっている【中日新聞：2018/11/02】

<http://www.chunichi.co.jp/article/fukui/20181102/CK2018110202000037.html>

■日本製紙(株)北海道工場勇払事業所(北海道苫小牧市)が 2020 年 1 月で洋紙生産から撤退。新規事業として目指す木質バイオマス発電について、大手総合商社の双日(株)(東京)と共同出資で合弁会社を設立し、運営する方向で検討へ。11 月 6 日開催の苫小牧市企業立地審議会で日本製紙側から計画が示された。事業案によると、発電所は勇払事業所構内北西側の約 7ha の敷地を活用し、木材チップ供給棟やボイラ建屋、タービンや発電機などの収容施設、冷却塔の 4 施設を整備。2020 年 3 月に着工し、2022 年の営業運転開始を目指すとしている。今年 5 月に日本製紙が発表した構想案などでは、出力 7 万 4,950kW で木質チップのみを原料とするバイオマス発電所としては国内最大級。原料は国内外から集荷した木質チップ、東南アジアから輸入した PKS、道産未利用材を使用する予定。年間の発電量は約 6 億 kW とし、一般家庭で約 7 万 5,000～10 数万世帯分相当。FIT で全量を売電する。総事業費は 200 億円超の見通し。双日は、苫小牧民報の取材に「(合弁会社設立に向けて)協議はしているが、まだ検討段階」と説明【苫小牧民報：2018/11/07】

<https://www.tomamin.co.jp/news/main/15027/>

■長野県や塩尻市、征矢野建材（株）（長野県松本市）が連携して取り組む「信州F・パワープロジェクト（長野県塩尻市）」の木質バイオマス発電所で、10月29日に起工式。同発電所は定格出力1万4,500kW、年間売電量は一般家庭2万6千世帯分の9,500万kW/hを想定。国産木材を使ったバイオマス発電施設としては全国最大規模。征矢野建材や九電みらいエナジー（株）（福岡）、北野建設（株）（長野）など6者が出資する特定目的会社「ソヤノウッドパワー（株）（長野）」が運営する。同敷地内の製材工場は2015年4月に稼働。発電施設も同時に運転を始める予定だったが、資材高騰などで事業費が膨らみ、出資者の調整に時間を要したため遅れていた。発電施設の工事が実際に始まるのは11月下旬で、荏原環境プラント（株）（東京）や（株）三井三池製作所（同）の共同企業体（JV）が建設にあたる。発電施設の総事業費は約100億円。2020年7月に試運転を始め、同10月運用開始予定【信毎新聞：2018/10/30】

<https://www.shinmai.co.jp/news/nagano/20181030/KT181029ATI090007000.php>

■岩手、宮城にまたがる北上山地が建設候補地となっている超大型加速器「国際リニアコライダー（ILC）」から出る排熱を再利用した地域活性化を、高エネルギー加速器研究機構（茨城）の吉岡正和名誉教授の研究グループが提唱。ILCの実験施設を稼働させるには、ピーク時で117MW、7億kWh/年という膨大な電力が必要。消費した電力は全て熱エネルギーに置き換わって保存されるが、60～200℃と低温で利用価値が低いとみられ、これまで研究施設では排熱を冷却して空気中に放出していた。吉岡氏は低温熱を自在に吸収・排出できる蓄熱材「ハスクレイ」に着目し、蓄熱したハスクレイをトラックなどで輸送する「熱エネルギーの宅配便」を考案。ハスクレイは一般的な都市ガスの約13倍相当の高密度熱量を蓄熱可能で、住宅などの暖房や給湯、農作物のハウス栽培、工場の熱源とあらゆる場面で活用できる。さらに電力供給には研究棟、研究者住宅、その他のILC関連施設を木造建築にし、その廃材を燃料として利用するバイオマス発電を提案。「グリーンILC構想」を提唱する吉岡氏は、ILCの研究棟を木造で建てた場合の地域経済効果は24億3,970万円で、鉄骨で建てた場合（14億8,534万円）の1.64倍になると試算。建設費も木造の17億9,369万円に対し鉄骨は21億4,365円となり、整備費も節減できるとしている【河北新報：

2018/10/31】

[https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201810/20181031\\_73049.html](https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201810/20181031_73049.html)

■北海道勇払郡占冠村で進む木質バイオマス燃料の地産地消。村では2013年、湯の沢温泉が薪ボイラを初導入。村木質バイオマス生産組合が約300t/年薪を生産しており、現在は道の駅自然体感しむかっぶや占冠中央スキー場をはじめ、星野リゾートトマムなど5施設がストーブやボイラの燃料に使用。村が2020年に整備する占冠保育所にもボイラの導入を検討中。ただ一般住宅への導入は6戸にとどまっており、薪生産の機械化による経費削減や村外に向けた需要拡大も求められている【北海道新聞：2018/11/03】

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/244448>

■日本紙パルプ商事（株）（東京）子会社のJapan Pulp & Paper (M) Sdn. Bhd.（マレーシア）、PKSの回収・販売事業を行うOVOL New Energy Sdn. Bhd.（マレーシア、以下「ONE社」）を設立し、営業を開始。ONE社はマレー半島南部の貿易港であるポートクラにストックヤードを構え、搾油所で発生したPKSを回収・選別し、マレーシア国外に向けて輸出する。同社子会社で木質バイオマス発電所を運営している（株）野田バイオパワーJP（岩手）への供給に加え、グループ外の木質バイオマス発電所向けの取り扱いも予定【日本紙パルプ商事（株）：2018/11/05】

<https://www.kamipa.co.jp/news/20181105/11258/>

■清水建設（株）（東京）が、木質バイオマス発電事業に参入。長野県東御市に2,000kW級のバイオマス発電所建設へ。同社100%子会社の「信州ウッドパワー（長野県東御市）」が事業を担当。土地売買契約を経て11月末にも建設に着手。近く県内で森林保全や環境対策に積極的な長野トヨタ自動車（株）（長野）が出資し、共同で事業展開する。清水建設が三菱日立パワーシステムズインダストリー（株）（神奈川）製プラント、（株）日立プラントメカニクス（山口）のクレーン、富士鋼業（株）（静岡）のチップを組み合わせて実現する。蒸気タービン方式の発電施設で、チップを発電ボイラに投入する作業を自動化し、深夜や休日の作業を無人化して24時間稼働させる。保守期間を除き年間340～345日稼働し、年間売上高約5億円を計画。燃料の切削チップは地元のカラマツ、アカマツ、杉などで製材に使用できない低質材を約3万t/年調達。間伐材やマツクイムシによ

る被害材の処理・資源化といった課題を解決し、森林保全育成に役立てる。チップ材購入で地元林業者に年1億～1億5,000万円支払い、木材需要の創出につなげる。投資額は約30億円。2020年5月に稼働し、FITにより20年間中部電力(株)(愛知)に売電する予定【工業団地インフォ:2018/11/07】

<https://estate.nikkan.co.jp/news/2018/11/mio4qyjwys3nau4y>

■会計検査院、2017年度の決算検査報告で北海道白老町が国の交付金を活用して整備したバイオマス燃料化施設が「目的不達成」と指摘(11月9日)。問題となったのは、町内の家庭から出る可燃ごみを高温高圧処理設備で粉末状にし、成形設備で約1万t/年の燃料を製造する事業。国の「地域バイオマス利活用交付金」を活用し、事業費14億円(うち国の補助7億円)で施設を整備し2009年4月稼働。町内の製紙工場に燃料を売却予定だったが、稼働直後から塩素濃度が高いなど計画通りの製造ができず収支が悪化。2014年4月に高温高圧処理設備を停止し、成形設備だけを使って残存した粉末で燃料を1,300t/年(2017年度)製造するにとどまっていた。同町は可燃ごみの大半を隣接する登別市で処理している。国は7億円のうち高温高圧処理設備分の耐用年数までの残存価値8,550万円の返還を求めた。同町は今年度末までに事業から完全撤退し、成形設備を含めた残存価値の国の補助分1億8,500万円を返還する。事業の起債残高3億1,500万円と合わせて約5億円を清算する今年度補正予算案を、12月の議会に提出する【毎日新聞:2018/11/08】

<https://mainichi.jp/articles/20181110/k00/00e/040/245000>

c

■東北通商(株)(秋田)、同社の木材乾燥装置の廃熱を利用したビニールハウスでの水耕栽培システムを開発。乾燥装置に熱を供給する木質バイオマスヒーターの廃熱をハウスに供給することで、エネルギー効率を上げる。製材所向けのサイドビジネスとして取引先企業に提案する【日本経済新聞:2018/11/09】

[https://www.nikkei.com/article/DGXMZ037584110Z01C18A1L01000/%3Fn\\_cid%3DTPRN0003&ct=ga](https://www.nikkei.com/article/DGXMZ037584110Z01C18A1L01000/%3Fn_cid%3DTPRN0003&ct=ga)

■王子ホールディングス(株)(東京)のグループ会社である王子木材緑化(株)(東京)が、北海道道南地域においてバイオマス発電燃料用および製紙原料用の木質チップ生産を目的とする新会社の設立を決定。北海道北斗市に工場を建設し、林地から伐出された丸太を用いて木質チップを生産する。また移動式チップを導入し、伐採後の枝条材を含む林地残材も活用する。年間生産量は、バイオマス発電燃料用チップ

3万t/年および製紙原料用チップ6,000t/年を目指し、それぞれエム・ピー・エム・王子エコエネルギー

(株)バイオマス発電所(青森県八戸市)、王子製紙(株)苫小牧工場(北海道苫小牧市)に販売する計画。事業開始は2019年6月の予定【王子ホールディングス:2018/11/09】

<https://www.ojeholdings.co.jp/Portals/0/resources/content/files/news/2018/ChmQzjM.pdf>

※OSR:バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

## 2. ペレット関連情報

■シンエネルギー開発(株)(群馬)、学生を対象としたバイオマス発電用ペレット収蔵施設外装デザインアイデアコンテストを10月12日に開催。最優秀賞は東京電機大学大学院と日本大学大学院の学生3名による「team komakoma」の「木材倉庫のミュージアム ～風景を記録する玉手箱～」に決定。シンエネルギー開発は本社のある群馬県沼田市でペレット製造工場を新設する計画で、製品や原料を保管する倉庫として使う収蔵施設を併設する予定。コンテストは一次審査に県内外で建築や設計を学ぶ大学生ら約35組が応募し、最終審査には5組が進出。建築家3人と同社社長が、デザインの狙

いやコンセプトに関する発表を審査した。最優秀受賞チームは賞金が贈呈されるほか、実施設計でそのデザインが母案として採用される見通し。最終審査結果発表作品は、同社サイト上で公開中【シンエネルギー開発(株):2018/10/15、OSR No.343:2018/10/17】

<http://www.n-e-d.net/contest.html>

■愛媛県内子町の森林組合小田支所敷地内で建設を進めてきた「内子バイオマス発電所」が完成。10月31日に竣工式を開催。同発電所の設計・施工はシン・エナジー(株)(兵

庫)が担当。発電システムの構成は、ブルクハルト社(独)製の小型高効率木質バイオマス熱電併給装置6機と、アクセスエナジー社(米)製バイナリー発電装置1機を採用。システム全体の定格出力は1,115kWだが、発電端効率は33%超、送電端効率は30%超。発電量は約883万(うち送電量約811万)kWh/年の見込みで、発電した電力はFITを利用し、四国電力(株)(香川)へ全量売電する予定。運営は、内子バイオマス発電合同会社(SPC)が行うことになっており、地元企業の(有)内藤鋼業(同町)の内藤昌典氏が発電所所長を務める。内藤鋼業は、内子町森林組合や地元林業事業者が供給した原木をペレットに加工し、発電所へ燃料供給も行う。同プロジェクトに必要な資金は内藤鋼業、(株)藤岡林業(内子町)、新興工機(株)(愛媛)、NECキャピタルソリューション(株)(東京)、シン・エナジーの5社が、(株)ソーシャルビジネスパートナーズ(東京)よりファンド組成の支援を受けて出資するとともに、地元の(株)伊予銀行からの融資を受け調達。発電規模2,000kW未満の商用小型発電所としては、四国初【PR TIMES:2018/10/17、シン・エナジー(株):2018/11/01】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000028.000025041.html>

<https://www.symenergy.co.jp/news/release/20181101-3142.html>

■三井物産(株)(東京)、Altus Renewables Limited(オーストラリア、以下「アルタス社」との間で、アルタス社がオーストラリア・クイーンズランド州で操業する木質ペレット製造工場および積出港出荷設備を拡張するための融資契約を締結するとともに、アルタス社の製造する木質ペレット10万tを10年間にわたり引き取る長期売買契約を締結。三井物産はアルタス社のトゥアン工場(同州)操業開始以来同社の日本向け販売を通じ良好な関係を構築。今後両社は、日本向け供給を視野に入れた、さらなる豪州での木質ペレット増産計画についても協議・検討を進めていく予定【三井物産(株):2018/10/18】

[https://www.mitsui.com/jp/ja/topics/2018/1227401\\_11233.html](https://www.mitsui.com/jp/ja/topics/2018/1227401_11233.html)

■出光興産(株)(東京)は山口県周南市にある同社徳山事業所において、バイオマス発電所の事業化検討を開始したと

発表。徳山事業所は1957年に出光初の製油所として操業を開始。その57年後、2014年3月にエネルギー供給構造高度化法に伴い石油精製機能を停止し、現在は化学事業の主力拠点となっていた。同プロジェクトの発電出力は5万kW、年間発電規模3億6千万kWh(約10万世帯分の電力)で、燃料使用量は約23万t/年。大型であるため、営業運転開始後暫くは輸入木質ペレットとPKSを使用するが、中長期的には間伐材や製材端材等、国産材へのシフトを進める予定。発電した電力はFITを活用して中国電力(株)(広島)に売電する。また、一部は同社子会社の出光グリーンパワー(株)(東京)を通じて、再エネ電力メニューとして顧客に供給することも検討している。ボイラメーカーおよびEPC事業者は非公表。2022年度内の営業運転開始を目指す【出光興産(株):2018/10/29、メガソーラービジネス:2018/11/09】

[http://www.idemitsu.co.jp/company/news/2018/181029\\_3.pdf](http://www.idemitsu.co.jp/company/news/2018/181029_3.pdf)  
<https://tech.nikkeibp.co.jp/dm/atcl/news/16/110911675/?ST=msb>

■関西電力(株)(大阪)、兵庫県相生市にある同社の石油火力発電所「相生発電所2号機(定格出力37.5万kW)」をバイオマス専焼発電設備に改修へ。同社と三菱商事パワー(株)(東京)が共同設立した事業会社「相生バイオエナジー(株)(兵庫)」が10月30日、プロジェクトファイナンスによる融資を受け、詳細設計・機器調達に着手したと発表。発電所は1982年に運転開始。今回の改修で燃料を石油から木質ペレットに変更し、定格出力は20万kWに。木質ペレットは、三菱商事(株)(東京)が米国のバイオマス燃料大手Envivaの関連会社から調達。ボイラや燃料運搬コンベアの改修・新設工事は(株)IHI(東京)とIHI運搬機械(IUK)(株)(東京)が、タービンの換装工事は東芝エネルギーシステムズ(株)(神奈川)が受注。また物流業者の(株)上組(兵庫)が、三菱商事が供給を担う木質ペレットの輸入本船荷役、サイロ保管、発電所までの内航輸送業務を行うとともに、専用施設として全農サイロ神戸支店の施設を取得し、燃料供給基地として改造する。発電した電力はFITを通じて売電する予定。燃料変更に向けた準備として今年4月1日から休止していたが、2019年5月には発電設備を関西電力から相生バイオエナジーに承継し、2020年2月に工事の着工、2023年1月の営業運転開始を目指す【関西電力(株):



2018/10/30、日経 XTECH、LOGISTICS TODAY :

2018/10/31】

[https://www.kepco.co.jp/corporate/pr/2018/1030\\_1j.html](https://www.kepco.co.jp/corporate/pr/2018/1030_1j.html)

<https://tech.nikkeibp.co.jp/dm/atcl/news/16/103111647/>

<https://www.logi-today.com/329119>

■ユーロストーブ（〔有〕河西）（神奈川）、イタリア製のペレットストーブ用灰掃除機「CENETOP（チェネトップ）」の取扱いを開始。CENETOP は毎日のストーブの掃除、シーズンオフ前のメンテナンスに非常に便利なダブルフィルターを採用し、ブロー機能も装備。ノズルの先端を手でふさぎ、クリーニングボタンを3~4回押すことで、フィルター周りの灰を落とすことも可能。重量は5.2kg、灰が入るタンク容量は18ℓ。販売価格は15,000円（税・送料別）。総輸入元は、新潟でペレットストーブ、ボイラ等の販売から施工まで手掛けている北越融雪（株）。北越融雪ホームページからは、オンラインショップでも購入可能とのこと【ユーロストーブ（〔有〕河西）；2018/10/31、北越融雪（株）】

<https://www.pellet-stove.jp/%E3%83%9A%E3%83%AC%E3%83%83%E3%83%88%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%BC%E3%83%96%E7%94%A8%E6%8E%83%E9%99%A4%E6%A9%9F/>

<https://pellet.co.jp/item/cenetop/>

■極東開発工業（株）（兵庫）が木質ペレットを貯蔵サイロに空気で搬送できるエア搬送ユニット「JETCUBE（ジェットキューブ）」を開発し、11月13日より発売。ペレットの輸送および貯蔵用サイトへの搬送には、ペレットを詰めたフレキシブルコンテナバッグをクレーンでサイロ上部に運んで作業者が荷ほどき作業を行う必要があり、危険な高所作業を伴うほか非効率な点が課題になっていた。ジェットキューブはサイロ上部の搬入口までペレットをエア搬送（約11分/t供給可能）することが可能で、高所作業が不要。作業者の負担を大幅に軽減することができる。ユニットサイズは一般的なペレット1枚分の大きさとしたコンパクトな設計で、トラックのデッキに搭載しても、定置式としても利用可能。また、配送作業で使用しているトラッククレーンとフレキシブルコンテナバッグをそのまま活用できるため、新たな設備等は不要。本体希望小売価格は300万円（税別）。ホース類や排気

ダクト、排気ブロワ、バグフィルタなどのシステム付属品は参考価格50万円。販売目標は30台/年【極東開発工業

（株）；2018/11/08、メガソーラービジネス：

2018/11/09】

[http://www.kyokuto.com/ir/pdf/181108\\_1.pdf](http://www.kyokuto.com/ir/pdf/181108_1.pdf)

<https://tech.nikkeibp.co.jp/dm/atcl/news/16/110911678/?ST=msb>

■日本トランスシティ（株）（三重）、三重県四日市市霞地区の保有地に新倉庫「霞バイオマスセンター」を建設へ。約13,120㎡（約3,969坪）の広さで鉄筋コンクリート造、平屋建。主として木質ペレットおよびPKSといったバイオマス燃料の荷受、保管、出荷、配送などの物流業務に使う。投資総額は約42億円の予定。工事着工は2018年11月、竣工予定は2019年10月【日本トランスシティ（株）：

2018/10/24】

<https://www.trancy.co.jp/home/pdf/%e6%96%b0%e5%80%89%e5%ba%ab%e3%80%8c%e9%9c%9e%e3%83%90%e3%82%a4%e3%82%aa%e3%83%9e%e3%82%b9%e3%82%bb%e3%83%b3%e3%82%bf%e3%83%bc%e3%80%8d%e5%bb%ba%e8%a8%ad%e3%81%ab%e3%81%a4%e3%81%84%e3%81%a6.pdf>

■エンヴィヴァ（USA）、三菱商事（株）（東京）とのオフタイク契約が確定し、兵庫県相生市で相生バイオエナジー（株）（兵庫）が運営予定の相生発電所2号機に輸入木質ペレット燃料を供給する独占企業に。先に日本の大口顧客に木質ペレットを63万MT/年供給するとのテイク・オア・ペイ式オフタイク契約を発表していたが、その前提条件が満たされたことで確定に至った。同契約の下、エンヴィヴァ・パートナーズ（USA）と、ジョン・ハンコック生命保険会社（米国）との合弁企業であるエンヴィヴァ JV デベロップメント・カンパニー（USA）はそれぞれ、約18万MT/年と45万MT/年の木質ペレットを供給する。契約に基づく納入は2022年後半に開始され、最低15年間継続される計画【Business Wire：

2018/11/05】  
<https://www.businesswire.com/news/home/20181104005052/ja/>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

### 3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

◆NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク拡大研究会 2018

Ⅱ

月日 2018年11月30日（金）

場所 地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）（東京都渋谷区）

[http://www.geoc.jp/rashinban/event\\_detail\\_36421.html](http://www.geoc.jp/rashinban/event_detail_36421.html)

◆奈良県「森林の仕事ガイダンス in 奈良」

月日 2018年12月1日（土）

場所 奈良市ならまちセンター 1階「市民ホール」（奈良県奈良市）

<http://www.pref.nara.jp/item/204390.htm#moduleid10953>

◆適正技術フォーラム 第4回適正技術フォーラム「国内の持続可能な地域社会形成と適正技術－再生可能エネルギーと地域循環型経済－」

月日 2018年12月1日（土）

場所 JICA 東京（幡ヶ谷） セミナールーム 411（東京都渋谷区）

<https://atfj.jp/news/event/20181201forum/>

◆綾部里山交流大学・田舎生活研究所「森の京都サステイナビリティ・ミュージアム」

月日 2018年12月1日（土）

場所 綾部市里山交流研修センター「森もりホール」（京都府綾部市）

<https://inaka-seikatsu.info/information/12-1%E6%98%A0%E7%94%BB%E3%80%8C%E3%81%8A%E3%81%A0%E3%82%84%E3%81%8B%E3%81%AA%E9%9D%A9%E5%91%BD%E3%80%8D%E8%87%AA%E4%B8%BB%E4%B8%8A%E6%98%A0%E4%BC%9A%EF%BC%86%E7%AD%92%E8%80%95%E5%B9%B3%E3%81%95/>

◆檜原村「檜原村で薪づくり体験～数馬の湯の薪をつくる

う！～」（第2回）

月日 2018年12月2日（日）

場所 檜原村内（東京都檜原村）

<https://www.tvac.or.jp/sagasu/44497>

◆岐阜県立森林文化アカデミー 森林環境教育セミナー「ドイツの森と子どもたち」

月日 2018年12月2日（日）～4日（火）

場所 岐阜県立森林文化アカデミー森の情報センター（岐阜県美濃市）

[https://www.forest.ac.jp/abroad/cooperation\\_seminar/?fbclid=IwAR2wmQc3roUf60EodUANv5orAJw8ITgYYMf1qCS\\_YgnLb2WAosX6RQiPflg](https://www.forest.ac.jp/abroad/cooperation_seminar/?fbclid=IwAR2wmQc3roUf60EodUANv5orAJw8ITgYYMf1qCS_YgnLb2WAosX6RQiPflg)

◆新社会システム総合研究所セミナー「英国の自治体電力ビジネスモデル」

月日 2018年12月3日（月）

場所 SSKセミナールーム（東京都港区）

[http://www.ssk21.co.jp/seminar/S\\_18337.html](http://www.ssk21.co.jp/seminar/S_18337.html)

◆（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 森林教育交流会「成果発表会」

月日 2018年12月3日（月）

場所 森林総合研究所多摩森林科学園（東京都八王子市）

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2018/20181203tamaresult/index.html>

◆国際機関日本アセアンセンター「日本-インドネシア国交樹立60周年記念森林ビジネスワークショップ コミュニティベースのエコ製品の振興：森林管理ユニット(FMU)との協働によるエコ製品のマーケティングと投資に向けて」

月日 2018年12月4日（火）

場所 日本アセアンセンターアセアンホール（東京都港区）

<https://www.asean.or.jp/ja/invest-info/eventinfo-2018-38/>

◆（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所公開シンポジウム「放射能汚染地域におけるシイタケ原木林の利用再開・再生」

月日 2018年12月6日（木）

場所 三会堂ビル9階石垣記念ホール（講演）及び第2会議

室（検査装置紹介）（東京都港区）

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2018/20181206shiitake/index.html>

◆環境省、他 エコプロ 2018 同時開催セミナー「世界のグリーン公共調達と環境ラベルの最新動向」

月日 2018 年 12 月 6 日（木）

場所 東京ビッグサイト 会議棟 6 階 607・608 会議室（東京都江東区）

[https://www.ecomark.jp/info/event/seminar\\_ecopro2018.html](https://www.ecomark.jp/info/event/seminar_ecopro2018.html)

◆（一社）産業環境管理協会、他「エコプロ 2018」

月日 2018 年 12 月 6 日（木）～8 日（土）

場所 東京ビッグサイト（東ホール）（東京都江東区）

<http://eco-pro.com/eco2018/>

◆「森林からはじまるエコライフ展 2018」～森づくりと木づかいで拓く、SDGs 時代の環境・社会・経済の未来の提案（仮）～

月日 2018 年 12 月 6 日（木）～8 日（土）

場所 東京ビッグサイト（東ホール）（「エコプロ 2018」内）（東京都江東区）

[http://eco-](http://eco-pro.com/eco2018/pdf/forest_exhibition_guidance_2018.pdf)

[pro.com/eco2018/pdf/forest\\_exhibition\\_guidance\\_2018.pdf](http://eco-pro.com/eco2018/pdf/forest_exhibition_guidance_2018.pdf)

◆日本エネルギー学会燃焼部会「燃焼に関する講習会～エネルギー管理士（熱分野）への第一歩～」

月日 2018 年 12 月 7 日（金）

場所 日本大学理工学部駿河台校舎（御茶ノ水）1 号館 2 階 121 会議室（東京都千代田区）

<https://www.jie.or.jp/publics/index/549/>

◆【エーゼロ株式会社 × 株式会社西栗倉・森の学校 × 株式会社 sonraku】西栗倉村ローカルベンチャー3 社合同企画 vol.2「何からはじめていいかわからない」が「自分からはじめればいい」に変わる！西栗倉村 視察・研修ツアー

月日 2018 年 12 月 7 日（金）～8 日（土）

場所 岡山県英田郡西栗倉村内

<https://www.a-zero.co.jp/tour/nishiawakura02>

◆（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所 森林講座

「森林は二酸化炭素を吸っている？吐いている？」

月日 2018 年 12 月 8 日（土）

場所 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 多摩森林科学園 森の科学館 2 階（東京都八王子市）

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2018/20181208tamalec/index.html>

◆NPO 法人森のライフスタイル研究所「あの森はいま？みんなで造り上げてきた山火事やスキー場の跡地、ひのきの森を見に行こう。」

月日 2018 年 12 月 8 日（土）

場所 長野県東御市田之尻の山火事跡地、長和町の和田峠スキー場跡地、佐久市のひのきの森等

[https://moridukuri.or.jp/event/20181208\\_morinokengaku/](https://moridukuri.or.jp/event/20181208_morinokengaku/)

◆フォレスター・ギャザリング「2018 フォレスターギャザリング@奈良」

月日 2018 年 12 月 8 日（土）

場所 今井まちなみ交流センター「華薨」（奈良県橿原市）

<https://www.facebook.com/forester.gathering/>

◎大分県日田市「第 10 回 日田の木と暮らしのフェア」

月日 2018 年 12 月 9 日（日）

場所 パトリア日田、中央公園（大分県日田市）

<http://www.city.hita.oita.jp/event/9131.html>

◆林野庁「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム」

月日 2018 年 12 月 9 日（日）

場所 大田区産業プラザ Pio（東京都大田区）

<http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kaihatu/180830.html>

◆国際青年環境 NGO A SEED JAPAN 高校・大学・専門学校！未来世代・全力応援プロジェクト 国際青年環境 NGO アシードジャパン presents「このデンキがヤバい！2018 シンポジウム～SDGs がヤバい！気候変動・エネルギー編～」

月日 2018 年 12 月 9 日（日）

場所 AP 横浜駅西口会議室（神奈川県横浜市）

<http://www.eic.or.jp/event/?act=view&serial=36766>

◆(株)技術情報センター「バイオマスガス化発電・CHP(熱電併給)技術の実際と適用動向～6名(電中研、VOLTER、森のエネルギー研究所、飛騨高山グリーンヒート、Holzenergie、川崎重工業)から解説～」

月日 2018年12月13日(木)

場所 東京・新お茶の水・連合会館(旧 総評会館)・会議室  
(東京都千代田区)

<http://www.tic-co.com/seminar/20181211.html>

◆経産省近畿経済産業局「バイオマスセミナーin兵庫 バイオマスの有効活用から新たな地域力創造へ!-農林漁業編-

月日 2018年12月14日(金)

場所 兵庫県立工業技術センター研究本館2階セミナー室3  
(兵庫県神戸市)

<http://www.kansai.meti.go.jp/3-6kankyo/H30fy/biomass1214.html>

◆(一社)全国林業改良普及協会「花粉発生源対策普及シンポジウム2018」

月日 2018年12月15日(土)

場所 木材会館7階大ホール(東京都江東区)

[http://www.ringyou.or.jp/hukyu/detail\\_1493.html](http://www.ringyou.or.jp/hukyu/detail_1493.html)

◆NPO法人農都会議/日本サステイナブルコミュニティ協会共同勉強会「再生可能エネルギーと地方創生-再エネを活用した地方創生促進策とその効果-

月日 2018年12月19日(水)

場所 港区神明いきいきプラザ4階集会室A(東京都港区)

<http://blog.canpan.info/bioenergy/archive/226>

◆(特非)日本環境倶楽部 環境セミナー「エネルギー産業の2050年」～Utility3.0へのゲームチェンジ～

月日 2019年1月15日(火)

場所 (株)NTTデータ エグゼクティブセミナールーム  
(東京都江東区)

<https://www.kankyoclub.or.jp/event/1901-1.html>

◆EU-Japan small-scale biomass gasification seminar

月日 2019年1月16日(水)

場所 東広島芸術センターくらら(広島県東広島市)

<http://www.eubce.com/eu-japan-small-scale-biomass-gasification-seminar.html>

◎日本エネルギー学会バイオマス部会「第14回バイオマス科学会議」

月日 2019年1月16日(水)～18日(金)

場所 16～17日:東広島芸術センターくらら(広島県東広島市)、18日:テクニカルツアー

<https://www.jie.or.jp/publics/index/629/>

◆NPO法人農都会議 バイオマスWG/地域G 1月勉強会

「森林環境税と新たな森林管理システムの施行に向けて-新税が地域の将来に及ぼす効果、国産材の利用拡大に向けた運用-

月日 2019年1月23日(水)

場所 港区神明いきいきプラザ4階集会室A(東京都港区)

<http://blog.canpan.info/bioenergy/archive/231>

◆(公社)大日本山林会木材サミット連絡会「大日本山林会・木材サミット連絡会合同シンポジウム 持続可能な社会に向けて -木材利用と地球環境-

月日 2019年1月28日(月)

場所 三会堂ビル9階石垣記念ホール(東京都港区)

[http://www.jwrs.org/181119SanrinkaiMokuzaiSummit\\_Symposium.pdf](http://www.jwrs.org/181119SanrinkaiMokuzaiSummit_Symposium.pdf)

◆WOODコレクション(モクコレ)2019実行委員会「WOODコレクション(モクコレ)2019」

月日 2019年1月29日(火)～30日(水)

場所 東京ビッグサイト東7・8ホール(東京都江東区)

[https://www.sekai2020.tokyo/20180625\\_mokucolle/](https://www.sekai2020.tokyo/20180625_mokucolle/)

◆(一財)省エネルギーセンター「ENEX2019 第43回地球環境とエネルギーの調和展」

月日 2019年1月30日(水)～2月1日(金)

場所 東京ビッグサイト東1・2ホール(東京都江東区)

<https://www.low-cf.jp/east/>

◆Jtb Communication Design 「Inter Aqua 2019 第10回国際水ソリューション総合展」

月日 2019年1月30日～2月1日  
場所 東京ビッグサイト東1ホール&会議棟（東京都江東区）

<https://www.interaqua.jp/>

◆次世代エネルギーワークショップ推進委員会「次世代エネルギーワークショップ(若手社会人編)」

月日 2019年2月1日(金)～2月2日(土)

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

<http://inst-dep.com/info/2263362>

◆NPO 法人農都会議／日本サステイナブルコミュニティ協会共同開催「サステイナブルコミュニティ シンポジウム～再生可能エネルギーでつくる未来社会、官民一体できりひろく地方創生～」

月日 2019年2月6日(水)

場所 専修大学 神田キャンパス 7号館 731教室（東京都千代田区）

<http://blog.canpan.info/bioenergy/archive/233>

◆グリーンイメージ国際環境映像祭実行委員会「第6回グリーンイメージ国際環境映像祭」

月日 2019年2月22日(金)～2月24日(日)

場所 日比谷図書文化館コンベンションホール（東京都千代田区）

<https://green-image.jp/filmfestivals/6th/>

◆リードエグジビションジャパン（株）「スマートエネルギーWeek 2019」

月日 2019年2月27日(水)～3月1日(金)

場所 東京ビッグサイト（東京都江東区）

<http://www.reedexpo.co.jp/ja/Expo/207372/Week>

◎リードエグジビションジャパン（株）「第4回 国際バイオマス発電展」

月日 2019年2月27日(水)～3月1日(金)

場所 東京ビッグサイト（東京都江東区）

<http://www.reedexpo.co.jp/ja/Expo/1166848>

■リードエグジビションジャパン（株）「第2回 地方創生EXPO」

月日 2019年2月27日(水)～3月1日(金)

場所 幕張メッセ（4-7ホール）（千葉県千葉市）

<https://www.sousei-expo.jp/>

■日報ビジネス（株）「2019NEW 環境展」

月日 2019年3月12日(火)～15日(金)

場所 東京ビッグサイト（東京都江東区）

<http://www.nippo.co.jp/n-expo019/index.htm>

■日報ビジネス（株）「2019 地球温暖化防止展」

月日 2019年3月12日(火)～15日(金)

場所 東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.nippo.co.jp/stop-ondanka19/>

■（一社）日本木材学会「第69回日本木材学会大会（函館大会）」

月日 2019年3月14日(木)～16日(土)

場所 函館アリーナ（北海道函館市）

<http://www.jwrs.org/wood2019/index.html>

■（一社）日本森林学会「第130回日本森林学会大会」

月日: 2019年3月20日(水)～23日(土)

場所: 新潟コンベンションセンター「朱鷺メッセ」（新潟県新潟市）

<https://www.forestry.jp/>

◎10th Biomass Pellets Trade & Power

月日 2019年5月13日(月)～16日(木)

場所 東京

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=190501&>

■バイオマスエキスポ実行委員会「バイオマスエキスポ2019」

月日 2019年6月5日(水)～6月7日(金)

場所 東京ビッグサイト青海展示棟（東京都江東区）

<https://www.biomassexpo.info/expo/>

■第14回再生可能エネルギー世界展示会（RE2019）

月日 2019年7月10日(水)～7月12日(金)

場所 パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

<http://www.renewableenergy.jp/>

◎バイオマスエキスポ実行委員会

・「次世代森林産業展 2019 FORESTRISE 2019 Innovative & Integrative Woods Industries」

・「バイオマスエキスポ 2019 Nagano」

月日 2019年8月1日(木)～8月3日(土)

場所 ビッグハット/若里ホール(長野県長野市)

<http://www.forestrise.jp/>

■ISAP2020 日本開催組織委員会「国際応用藻類学会第7回大会 (ISAP2020)」

月日 2020年4月20日(月)～24日(金)

場所 幕張メッセ(千葉県千葉市)

<http://v4.eir->

[parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1627880](http://v4.eir-parts.net/v4Contents/View.aspx?cat=tdnet&sid=1627880)

■日報ビジネス(株)「2020 地球温暖化防止展」

月日 2020年4月22日(水)～24日(金)

場所 インテックス大阪(大阪府)

<http://www2.nippo.co.jp/stop-ondanka18/>

#### 4. イベント情報(海外)

◆ENERGY FROM WASTE

月日 2018年12月4日(火)～5日(水)

場所 ロンドン(UK)

<http://www.smi-online.co.uk/energy/uk/conference/energy-from-waste>

◆POWER-GEN International 2018

月日 2018年12月4日(火)～6日(木)

場所 フロリダ州オーランド(USA)

<https://www.power-gen.com/index.html>

◆ALGAEUROPE 2018

月日 2018年12月4日(火)～6日(木)

場所 アムステルダム(オランダ)

<http://algaeurope.org/>

◆3rd Biogas Congress

月日 2018年12月10日(月)～11日(火)

場所 ポズナン(ポーランド)

<http://magazynbiomasa.pl/en/kongres-biogazu/>

◆Biogas 18

月日 2018年12月11日(火)～12日(水)

場所 リンツ(オーストリア)

<http://www.kompost-biogas.info/veranstaltungen/kongress-biogas18/>

◆Value of Biogas 2019 WEST

月日 2019年1月15日(火)～16日(水)

場所 BC州バンクーバー(カナダ)

<http://www.biogasassociation.ca/vob2019%20>

◆BIOMASS TRADE SUMMIT EUROPE

月日 2019年1月16日(水)～17日(木)

場所 ロッテルダム(オランダ)

<https://www.bioenergy->

[news.com/?utm\\_source=BUSINESS+%28-](https://www.bioenergy-news.com/?utm_source=BUSINESS+%28-)

[+policy%29&utm\\_campaign=d8b77ca74c-](https://www.bioenergy-news.com/?utm_source=BUSINESS+%28-+policy%29&utm_campaign=d8b77ca74c-)

[EMAIL\\_CAMPAIGN\\_2018\\_09\\_13\\_03\\_08&utm\\_medium=email&utm\\_t](https://www.bioenergy-news.com/?utm_source=BUSINESS+%28-+policy%29&utm_campaign=d8b77ca74c-245868161)

[erm=0\\_bf7c58cc01-d8b77ca74c-245868161](https://www.bioenergy-news.com/?utm_source=BUSINESS+%28-+policy%29&utm_campaign=d8b77ca74c-245868161)

◆Fuels of the Future 2019

月日 2019年1月21日(月)～22日(火)

場所 ベルリン(ドイツ)

<https://www.bioenergie.de/>

◎5th Biomass & BioEnergy Asia

月日 2019年1月23日(水)～24日(木)

場所 バンコク(タイ)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=190106&>

◆Energy Storage 2019

月日 2019年1月23日(水)～24日(木)

場所 ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/energy-storage-conference/>

◆BOIS ENERGIE

月日 月日 2019年1月30日(水)～31日(木)

場所 レヌ(フランス)

<https://www.boisenergie.com/en/>

◆Biogaz Europe

月日 2019年1月30日(水)～31日(木)

場所 レヌ(フランス)

<https://www.biogaz-europe.com/en/>

◆ReGen Europe

月日 2019年1月30日(水)～31日(木)

場所 レヌ(フランス)

<https://www.regen-europe.com/en/>

◎4th Biomass Trade and Power Europe

月日 2019年2月12日(火)～13日(水)

場所 コペンハーゲン(デンマーク)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=190203&>

◆9th ISCC Global Sustainability Conference

月日 2019年2月13日(水)

場所 ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.iscc-system.org/stakeholders/annual-iscc-global-sustainability-conference/>

◆LIGNOFUELS 2019

月日 2019年2月13日(水)～14日(木)

場所 オスロ(ノルウェー)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/lignocellulosic-fuel-conference-europe/>

◆9th ISCC Global Sustainability Conference

月日 2019年2月14日(木)

場所 ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.iscc-system.org/stakeholders/annual-iscc-global-sustainability-conference/>

◎European Pellet Conference

月日 2019年2月26日(火)～28日(木)

場所 ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/programme/european-pellet-conference.html>

◆12th Carbon Dioxide Utilization Summit 2019

月日 2019年2月27日(水)～28日(木)

場所 テキサス州ヒューストン(USA)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/co2-us/>

◆ENEX/ENEX New Energy

月日 2019年2月27日(水)～3月1日(金)

場所 キエルツェ(ポーランド)

<http://targikielce.pl/pl/enex.htm>

◆World Sustainable Energy Days 2019

月日 2019年2月27日(水)～3月1日(金)

場所 ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/world-sustainable-energy-days.html>

◎European Pellet Conference 2019

月日 2019年2月26日(火)～28日(木)

場所 ヴェルス(オーストリア)

<http://www.wsed.at/en/programme/european-pellet-conference.html>

◆Argus Biomass to Power Day

月日 2019年3月5日(火)

場所 シンガポール(シンガポール)

<https://www.argusmedia.com/conferences-events->

[listing/biomass-to-power-day](#)

◆Argus Biomass

月日 2019年3月6日(水)～7日(木)

場所 シンガポール(シンガポール)

<https://www.argusmedia.com/conferences-events-listing/biomass-asia>

◆ISH 2019

月日 2019年3月11日(月)～15日(金)

場所 フランクフルト(ドイツ)

<https://ish.messefrankfurt.com/frankfurt/en.html>

◆Gasification 2019

月日 2019年3月13日(水)～14日(木)

場所 ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/gasification/>

◆Sweet 2019 - Solar, Wind & Earth Energy Trade Fair

月日 2019年3月13日(水)～3月15日(金)

場所 光州(韓国)

<https://www.sweet.or.kr/fairDash.do>

◆2019 International Biomass Conference & Expo

月日 2019年3月18日(月)～20日(水)

場所 ジョージア州サバンナ(USA)

<http://biomassmagazine.com/events/browse/>

◆Value of Biogas 2019 EAST

月日 2019年3月21日(木)～22日(金)

場所 オンタリオ州トロント(カナダ)

<http://www.biogasassociation.ca/vob2019%20>

◆FORST live

月日 2019年3月29日(金)～31日(日)

場所 オッフエンブルク(ドイツ)

<https://www.forst-live.de/en/forst-live-en>

◆WORLD BIO MARKETS

月日 2019年4月1日(月)～3日(水)

場所 アムステルダム(オランダ)

<https://www.biobasedworldnews.com/events/world-bio-markets>

◆International Green Energy Expo & Conference 2019

月日 2019年4月3日(水)～5日(金)

場所 Exhibition Hall, EXCO(韓国)

<http://www.energyexpo.co.kr/eng/>

◆Argus Biomass 2019

月日 2019年4月8日(月)～10日(水)

場所 ロンドン(UK)

<https://www.argusmedia.com/ja/conferences-events-listing/biomass>

◆9th European Algae Industry Summit

月日 2019年4月10日(水)～11日(木)

場所 リスボン(ポルトガル)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/european-algae-industry-summit/>

◆14th Exhibition & Conference for South-East Europe -Energy Efficiency & Renewables-

月日 2019年4月16日(火)～18日(木)

場所 ソフィア(ブルガリア)

<https://viaexpo.com/en/pages/ee-re-exhibition>

◆Waste EXPO

月日 2019年5月6日(月)～9日(木)

場所 ネバダ州ラスベガス(USA)

<https://www.wasteexpo.com/en/home.html>

◆ALL-ENERGY EXHIBITION AND CONFERENCE 2019

月日 2019年5月15日(水)～16日(木)

場所 グラスゴー(UK)

<http://www.all-energy.co.uk/>

◆ENVEX 2019 The 41<sup>st</sup> International Exhibition on Environmental Technology & Green Energy

月日 2019年5月15日(水)～17日(金)



場所 ソウル (韓国)

<http://www.envex.or.kr/kor/main/index.asp>

◆FORLENER

月日 2019年5月17日(金)～19日(日)

場所 エルバ (イタリア)

<http://www.forlener.it/default.aspx?idC=186>

◆6th International Conference on Renewable Energy Gas Technology, REGATEC 2019

月日 2019年5月20日(月)～21日(火)

場所 マルメ (スウェーデン)

<http://regatec.org/>

◆EUBCE 2019

月日 2019年5月27日(月)～30日(木)

場所 リスボン (ポルトガル)

<http://www.eubce.com/>

◆LIGNA 2019

月日 2019年5月27日(月)～31日(金)

場所 ハノーバー (ドイツ)

<http://www.ligna.de/home>

◆Asean Sustainable Energy Week 2019

月日 2019年6月5日(水)～8日(土)

場所 バンコク (タイ)

<http://www.asew-expo.com/>

◆SkogsElmia

月日 2019年6月6日(木)～8日(土)

場所 ヨンショーピン (スウェーデン)

<https://www.elmia.se/SkogsElmia/>

◆35th Annual International Fuel Ethanol Workshop & Expo

月日 2019年6月10日(月)～12日(水)

場所 インディアナ州インディアナポリス (USA)

<http://www.fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

◎VICTAM INTERNATIONAL 2019

月日 2019年6月12日(水)～14日(金)

場所 ケルン (ドイツ)

<https://victaminternational.com/>

◆25. Internationale Forstmesse

月日 2019年8月15日(木)～18日(日)

場所 ルツェルン (スイス)

<http://www.forstmesse.com/htm/home.htm>

◆POWERGEN Asia Conference & Exhibition

月日 2019年9月3日(火)～5日(木)

場所 クアラルンプール (マレーシア)

<https://www.powergenasia.com/en/index.html>

◆EXPOBIOMASA 2019

月日 2019年9月24日(火)～26日(木)

場所 バリャドリッド (スペイン)

<https://www.expobiomasa.com/>

◆EFE 2019 - 3<sup>rd</sup> Trade Fair for Energy Efficiency in Industry

月日 2019年10月2日(水)～3日(木)

場所 クラクフ (ポーランド)

<http://www.efekrakow.pl/gb/>

◎Biomass Brno

月日 2020年3月31日(火)～4月4日(土)

場所 ブルノ (チェコ共和国)

<https://www.bvv.cz/en/biomass/>

◆KWF Tagung 2020

月日 2020年7月1日(水)～4日(土)

場所 ヘッセン州シュヴァルツェンボルン (ドイツ)

<http://www.kwf-tagung.org/kwf-tagung.html>

◆Elmia Wood

月日 2021年6月2日(水)～5日(土)

場所 ヨンショーピン (スウェーデン)

<https://www.elmia.se/wood/>

## 5. 平成 30 年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇：ストーブ

◆：ストーブ・ボイラ共

【宮城県】

◆宮城県「平成 30 年度木質バイオマス広域利用モデル形成事業」

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/h30-biomass.html>

※地域協議会のあるモデル地域内のペレットストーブ又は薪ストーブを導入する個人、団体等が対象

## 6. 公募等情報（締切順）

◇環境省「平成 31 年度地球環境基金助成金募集」

募集期間 2018 年 11 月 5 日(月)～2018 年 12 月 5 日(水)

[http://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/application/h31\\_info.html](http://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/application/h31_info.html)

受付期間 2018 年 10 月 15 日(月)～2019 年 1 月 11 日(金)

[http://www.pref.shiga.lg.jp/hodo/e-](http://www.pref.shiga.lg.jp/hodo/e-shinbun/ai00/20181015.html)

[shinbun/ai00/20181015.html](http://www.pref.shiga.lg.jp/hodo/e-shinbun/ai00/20181015.html)

◇滋賀県「平成 30 年度滋賀県分散型エネルギーシステム導入加速化事業補助金の追加募集について」

追加募集期間 2018 年 10 月 2 日(火)～12 月 14 日(金)

<http://www.pref.shiga.lg.jp/f/hodo/e-shinbun/20181002.html>

◇徳島県「平成 30 年度脱炭素型設備転換支援事業補助金の公募について」

公募期間 2018 年 8 月 8 日(水)～2019 年 1 月 25 日(金)

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen/5003482/>

◇福島県「平成 30 年度再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金（福島県再エネ復興支援事業）の 6 次公募」

公募期間 2018 年 10 月 17 日(水)～12 月 19 日(水)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11025c/energy565.html>

◇あわら市観光協会「もりもりバイオマス視察研修」参加者募集中

募集期間 2019 年 2 月中旬まで全 7 回（下記サイト参照）

<http://awara.info/3542>

◇埼玉県【平成 30 年度】埼玉県分散型エネルギー利活用設備整備費補助金

公募期間 2018 年 6 月 1 日(金)～12 月 21 日(金)

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0503/bunnsangata-hozyo.html>

◇神奈川県小田原市「市民参加型再生可能エネルギー事業奨励金（認定設備）」

申請書提出期限 2019 年 2 月 28 日(木)

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/envi/energy/citizen-participation/shoureikin-setubi.html>

◇茨城県「中小規模事業所省エネ対策設備導入補助金（平成 30 年度省エネ補助金）」

受付期間 2018 年 6 月 21 日(木)～2019 年 1 月 10 日(木)

<http://www.pref.ibaraki.jp/seikatsukankyo/kansei/chikyu/hojokin.html>

◇神奈川県小田原市「市民参加型再生可能エネルギー事業奨励金（土地）」

申請書提出期限 2019 年 2 月 28 日(木)

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/envi/energy/citizen-participation/shoureikin-setubi-t.html>

◇滋賀県「平成 30 年度滋賀県地域エネルギー活動支援事業補助金の追加募集について」

◇兵庫県宍粟市「平成 30 年度：木質バイオマス燃料製造設備

補助金」

受付期間 2018年4月2日(月)～2019年3月14日(木)  
<http://www.city.shiso.lg.jp/kurashi/gomishinyokankyo/kankyoris aikuru/1515747829708.html>

◇長野県 平成30年度「1村1自然エネルギープロジェクト」  
の登録募集  
募集期間 三次募集：2018年12月3日(月)～2019年3月  
15日(金)  
<http://www.pref.nagano.lg.jp/ontai/kurashi/ondanka/shizen/bos hutoroku.html>

◇東京都「地産地消型再生可能エネルギー導入拡大事業」  
申請期間 2018年5月7日(月)～2019年3月29日(金)  
<https://www.tokyo-co2down.jp/page.jsp?id=9304>

◇経産省資源エネルギー庁「省エネ再エネ高度化投資促進税制  
(再生可能エネルギー部分)」  
適用期限 2018年6月20日(水)～2019年3月31日(日)  
[http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/new/in formation/180404a/index.html](http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/new/in formation/180404a/index.html)

※対象設備に対する特別償却20%の税制優遇

◇林野庁「省エネ再エネ高度化投資促進税制」  
適用期間 2018年4月1日～2020年3月31日  
<https://www.jwba.or.jp/%E6%96%B0%E8%A6%8F%E3%83%9A%E 3%83%BC%E3%82%B8- 1/%E7%9C%81%E3%82%A8%E3%83%8D%E5%86%8D%E3%82%A8 %E3%83%8D%E9%AB%98%E5%BA%A6%E5%8C%96%E4%BF%83%E 9%80%B2%E7%A8%8E%E5%88%B6/>

◇京都府「自立型再生可能エネルギー導入等計画の認定及び導  
入支援制度」  
計画認定申請期間 2015年10月1日(木)～2021年3月31  
日(水)  
<http://www.pref.kyoto.jp/energy/documents/nintaiseidogaiyou.p df>

◇東京都「東京都区市町村との連携による地域環境力活性化事  
業」

事業期間 2014年度～2023年度までの10年間

[http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/policy\\_others/municipal\\_supp ort/current.html](http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/policy_others/municipal_supp ort/current.html)

◇熊本県熊本市「平成30年度熊本市省エネルギー機器等導入  
推進事業補助金」  
[http://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c\\_id=5&id= 19867&class\\_set\\_id=2&class\\_id=65](http://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id= 19867&class_set_id=2&class_id=65)

◇高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」  
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.h tml>

◇新潟県柏崎市「柏崎市ECO2プロジェクト」  
<https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/kankyoseisaku/machi/kankyo /eco2/ondanka.html>

◇山形県「木質バイオマス発電施設整備支援事業費補助金」  
<http://www.pref.yamagata.jp/ou/kankyoenergy/050016/bioma ss.html>

◇高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」  
[http://www.city.kochi- konan.lg.jp/reiki\\_int/reiki\\_honbun/r254RG00001291.html](http://www.city.kochi- konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html)

◇栃木県「栃木県環境保全資金(省エネ設備等の導入)」  
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyou/ondanka/syoue ne-setubi-yuusi.html>

※融資制度

◇徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」  
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen /5007685/>

※融資制度

◇奈良県「新エネルギー等対策資金」  
<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

◇資源エネルギー庁「グリーン投資減税」

[http://www.enecho.meti.go.jp/category/others/green\\_tax/greensite/green/index.html](http://www.enecho.meti.go.jp/category/others/green_tax/greensite/green/index.html)

◇千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien-jigyousha.html>

◇千葉県市原市「市原市企業立地促進条例」

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyourittigaido.html>

◇千葉県南房総市「南房総市施設園芸用木質バイオマス暖房機設置費等補助金」

<http://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

◇福岡県「福岡県エネルギー利用モデル構築促進事業」

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/enegymodel.html>